

国語 第4学年 四年生をふり返って 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：一年間の国語の記録から変わったことを選び、以前と今の具体的な違いが伝わるように書く。楽しかった活動名の列挙で終わらせない。B(1)アの学習として、以前の記録、今できること、根拠となる言葉や文章、次に試したいことの振り返り。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、自分の学習の記録から書くことを選び、伝えたい変化を明確にしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さで判定しない。B(1)アの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：以前の記録、今できること、根拠となる言葉や文章、次に試したいことの振り返りを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)アに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：成果を大きく見せるため記録にない変化を書く、できなかったことだけを書く。これに対して、本人のノートや作品を使い、前と後の同じ観点を比べる。記録をなくした児童には授業内で再現できる短い活動を用意し、他の子との優劣でなく本人の変化を扱う。〔知識及び技能〕(1)アとB(1)アを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「前の自分と比べて、言葉の使い方の何が変わりましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)アに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：以前の記録、今できること、根拠となる言葉や文章、次に試したいことの振り返りは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)アの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)アで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：成果を大きく見せるため記録にない変化を書く、できなかったことだけを書く。本人のノートや作品を使い、前と後の同じ観点を比べる。記録をなくした児童には授業内で再現できる短い活動を用意し、他の子との優劣でなく本人の変化を扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「前の自分と比べて、言葉の使い方の何が変わりましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)アに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

